

石川県

いしかわ版環境ISOと里山里海の 利用・保全を推進

石川県では、地球規模の環境問題である地球温暖化の防止と生物多様性の確保について、独自の施策を推進しています。



家庭版環境ISO優良事例の報告

地球温暖化の防止では、環境ISOの発想を取り入れ、一般家庭や中小企業でもCO₂の削減に取り組める「いしかわ版環境ISO」という仕組みをつくりました。

家庭版、地域版、学校版、事業者版の4つがあり、家庭版では、今年度から、登録家庭を対象に「エコチケット」というポイント交換制度をスタートしたことで、登録数が大きく増加しました。この制度は、省エネや森林ボランティアなどの環境保全活動を行った場合にポイントを付与し、たまったポイントをエコチケットに交換すれば、県内産の農産物の購入等に使えるというものです。

また、今年度から、住宅の省エネ対策を普及するため、家庭版環境ISOの登録家庭が、太陽光発電システムなど、住宅の省エネ設備を3つ以上導入した場合に、設備投資額の5%を助成する「エコリビング支援事業」を創設しました。

事業者版では、当初は取り組みやすいオフィスの登録が中心でしたが、昨年度、業種別マニュアルを作成し、ホテルや旅館、病院、福祉施設、小売業などオフィスと現場が一体となった業態にも登録を呼びかけているところです。

一方、生物多様性の確保では、身近な自然である里山里海の利用や保全というアプローチを中心に、部局横断のプロジェクト・チームをつくり、積極的な取り組みを進めています。具体的には、里山里海を中心とした「生物多様性戦略ビジョン(仮称)」の策定をはじめ、住民主体で里山里海の利用・保全の仕組みづくりを行う「先駆的里山保全地区」の選定、里山里海フェア、生物多様性国際シンポジウムの開催などに取り組んでおり、来年のCOP10の場などを通じ、世界に発信していきたいと考えています。



里山里海フェア(ツリークライミング)

石川県環境部企画調整室

電話：076-225-1461

珠州市

「自然と共生するまち珠洲市」を目指して

珠洲市は能登半島の最先端に位置し、三方を海に囲まれるとともに、その面積の70%以上が森林によって占められ、希少動植物をはじめとした貴重な自然環境や生活文化が豊かに残された地域です。

本市では平成18年10月から、金沢大学が市内で廃校となった小学校施設を活用し、「能登半島里山里海自然学校」を開校しています。ここでは大学と地域が連携し、身近な自然である里山や里海の保全と再生、環境配慮型の農林水産業を担う人材を育成する「能登里山マイスター養成プログラム」が展開されており、週末には市内外から多くの若者が集い、それぞれのテーマに沿った新たな地域づくりに向けて取り組んでいます。



マイスター活動写真

また、同じく平成18年からは、半島の先端という地理的条件を活かし、民間事業者により風力発電施設の建設が進められてきました。これまでに1,500kw級風車が30基建設され、新エネルギー導入のシンボリック存在として、市民の環境意識の向上にも大きく寄与しています。加えて、平成19年8月からは、生ごみ、し尿、下水汚泥等を混

合処理してバイオガスを生産し、処理残物を肥料化するための熱エネルギーとして利用する「バイオマスメタン発酵施設」が全国で初めて国土交通省・環境省合同の事業によって整備され、稼働しています。



風力発電

こうした取り組みが評価され、本年4月には、独立行政法人「新エネルギー産業技術総合開発機構」(NEDO)が全国で風力や太陽光などの新エネルギーに取り組む自治体を認定する「新エネ百選」に選定されたところですが、その後も新たに市内でメガソーラー(大規模太陽光)発電所の建設が決定するなど、地域における自然環境を活かした様々な取り組みへの期待は、ますます高まっています。

現在も、身近なバイオマス資源の活用による循環型社会の形成を目指して「バイオマスタウン構想」を策定中であるなど、今後も里山里海自然学校を中心とした人材育成や教育機会の充実、関係NPOとの協働などにより、環境問題全般に関する市民意識の高まりを促しながら、「自然と共生するまち珠洲市」の実現に向けて取り組んでいきます。

珠州市企画財政課 電話：0768-82-7716